

探究通信 “All Different, All Wonderful”

～みんなちがって、みんないい～

【発行日】

令和4年9月20日

【発行者】

進路・探究部

～夏の課題「新書を読む」～

1 学年の探究学習では「新書を読む」ことを夏の課題としました。これまでは、与えられた「問い」から結論を導き出す小探究でしたが、今回は、生徒一人ひとりが自分の興味・関心のある内容(新書)を見つけ、それについて「問い」を見つけ、それを深め・まとめることで、2 学期以降の個人研究のテーマにつなげることを意識し、取り組みました。授業では、1 人 1 分という持ち時間の中で「本のタイトル」や「その本を選んだ理由」、「本の概要」、「今回の課題を通して生じた疑問(問い)」他を発表しました。

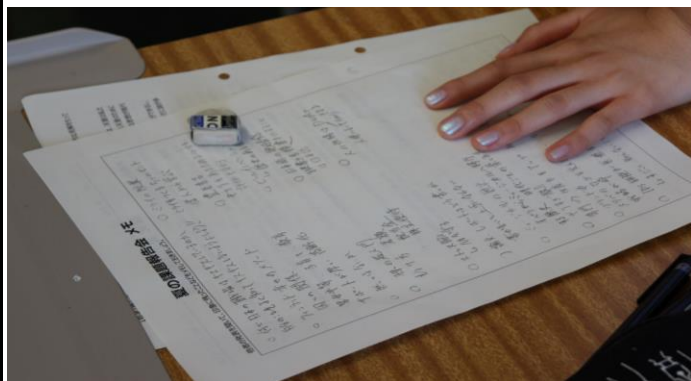
～生徒の読んだ新書「タイトル」(著者)～ ※一例です。

- ・「面白いほど良く分かる犯罪心理学」(内山 絢子)
- ・「赤ちゃんは言葉をどのように学ぶのか」(針生 悦子)
- ・「セブン・イレブンは日本をどう変えたのか」(吉岡 秀子)
- ・「ヒトはどうして死ぬのか 死の遺伝子の謎」(田沼 靖一)
- ・「子ども介護者ヤングケアラーの現実と社会の壁」(濱島 淑恵)
- ・「行動分析学入門 - ヒトの行動の思いがけない理由」(杉山 尚子)
- ・「人間らしさとは何か - 生きる意味を探る人類学講座」(海部 陽介)

- ・「性格とは何か」(小塩 真司)
- ・「日本史を疑え」(本郷 和人)
- ・「本をどう読むか」(岸見 一郎)
- ・「ストレス脳」(アンデシュ ハンセン)
- ・「植物はなぜ薬を作るのか」(斎藤 和季)
- ・「なぜ宇宙は存在するのか」(野村 康紀)
- ・「はずれ者が進化をつくる」(稲垣 栄洋)
- ・「働かないアリに意義がある」(長谷川 英裕)

～生徒の振り返り～

- ・今日の課題報告会を通してまず世の中には様々な疑問を持って生きている人がたくさんいることがよくわかった。周りの人たちが読んでいた本は、分野は違えど、新しいことに対する意見や、今の世界の状況などを記しているものが多く自分の興味がさらに広がっていった。特に自分の読んだ本にも関係する脳についての本は医学的にもとらえることができるからそちらのほうも読んでみたいと思った。今後はもっといろいろな観点から一つの本を読むようにしていきたいと思う。
- ・他の人たちがどのようなことに興味を持って新書を読んだのか知れてよかったです。また今回の発表会を通して、長い文書を要約して発表することの難しさを知りました。もっと発表の練習をしたいです



- ・クラスメイトは個性豊かな様々なジャンルの新書を紹介していたが、その本に対する疑問点も、自分が思いつかないようなものばかりであり、本の説明とともにそれぞれの考え方の違いについて学ぶことが出来た。他の新書も読んで、今後の探究活動のために疑問点を考えてみたい。
- ・私が同じグループの人の話を聞いていて思ったのは、「多視点」というところに目を向けている人が多いんだなということです。私自身も複数の視点から1つの物事を見ている本を選んだので、どの人の発表にも興味を持って聞くことができました。また、この人はこんなことに興味を持ったのかと意外に思ったり納得したり、あらゆる点で発見が多くあり、ほかの人の発表で気になったことにも目を向けてみたいと思いました。

- みんな本がかぶることはなかった。当たり前かもしれないけど、でも同じ世代の人であり同じクラスの人であり共通点はたくさんある中結局違うものになるのは一人一人が違う人間だからであって、各々に興味のあるものは異なるため。みんなの興味のあることを知るのも面白いが、自分の好きなことを知ってもらえるのも楽しかった。親しい友達は脳の仕組みが似ている人であることが多い、育った環境によるものだと読んだ新書に書いてあったが、私では絶対選ばないような本を選んでいる子もいて、育つ環境の影響の大きさはどれほど大きいものなのだろうかと改めて感心と疑問を持った。
- 何を読んだかではなく、何を思ったかを大切にすべきだと学びました。友達が読んだ様々なテーマの新書について知り友達との対話を通して興味関心を広げるのも一つの方法であることにも気づかされました。今後は自分が手に取らないような新書も読んでみたいと思いました。友達の興味関心にも目を向けたいと思います。

- 夏の課題では、新書を読んでいるうちに自然に問がたくさん湧いてきて、その中でも、本の中で疑問が回収されないものは、自分の課題研究にも活かせるようなものが多かったです。今回は、自分の興味のある分野ではなくて、役に立ちそうな新書を読んだけど、思っていたよりも新書から受けられる探究課題へのヒントが多くて、もっと新書を読んでみようと思いました。また、みんなの問や感想が、自分にはない着眼点を持ったものが多くて、自分がこれから問いを出す時も、広い視野で考えられるように気をつけようと思いました



- 今日の課題報告書はそれぞれが本を深く読みとり自分の言葉でうまく伝えていた。発表の中で自分が印象に残っているのは人間関係について書いた本だ。今の時期にとっても合っていてわかりやすかった。今回の課題では新書をよく読み考えを深める大切さを学んだ。自分の探究だけでなく、日常生活に活かせる知識を増やすことができた。
- 同じ新書を読んでいた人がいたけど、その人によってどこをピックアップして話すのが全然違く、人によってほんの読み取り方や感じ方は異なるのだなと思った。また、”新書”という一つの本の種類でも様々なジャンルの新書があり、ほんのチョイスが様々な個性があると感じた。

- 面白そうだった題材はプロジェクトサイエンスというもので、今流行りの「推し」が私たちに与える影響みたいなものについて書かれた本らしいのですが、現国の分節化を発展させたような内容らしく、学んだものがこういったところに出てきてそれがわかるというのが「学習」なんだろうなと実感しました。あと韓国語についての新書の話も面白く、私も韓国が好きなのでいつか読んだり話したりしてみたいなと思いました。自分の興味から選んだ人、(いい意味で)適当に選んだ人で分かれていたが、みんな学びになった点があるようで世の中なんでも学びにつながると感じました。

担当より

今回は、初めて生徒が自分の興味関心のある分野で「問い」を見つけました。1分という短い時間の中で、話し方や時間の管理、伝える情報の取捨選択など考えなければならないことがたくさんあったと思います。今回の発表で得た新たな課題を次回へ活かしましょう。

成田

